

## 第11回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成29年3月6日(月) 14:30 - 16:30

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、薬師寺座長代理、市川委員、小野田委員、倉本委員、藤井委員、山崎委員

(2) 政府側(宇宙開発戦略推進事務局)

佐伯審議官、行松参事官、高見参事官、松井参事官

(3) 陪席者

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課 堀内課長

宇宙開発利用課宇宙利用推進室 庄崎室長

宇宙産業・科学技術基盤部会委員 松尾委員

4. 議事要旨

(1) 我が国の宇宙科学・探査の在り方について

資料1、2に基づき、事務局から前回の概要やこれまでの議論の論点について説明を行った。説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。

(以下、 質問・意見等、 : 回答)

火星探査や月探査など国際宇宙探査の定義が明確ではない中で、具体的な目標を検討することは難しいので、いくつかのオプションを提示することを検討してはどうか。

国家プロジェクトは政策的価値があるのが基本で、検討の初期段階では学術的価値があるかどうかは関係ない。この観点では、資料2において「政策的価値や学術的価値の最大化」というように両者が等価に示されているのは違和感があるので、違いを明確化した方が良いのではないか。

将来の宇宙科学探査をしっかりと考えているというメッセージを研究者に明確に打ち出すべき。

有人固有の意義について、資料2の意義や成果等の中を書くべきではないか。

低軌道について、米国は民間に開放し、中国も積極的に開発を進める中で、我が国として低軌道も含めてどのように対応していくのかについても検討すべき。

今回はISEF2に向けた国際有人宇宙探査の議論に絞っているので現時

点での視点に入れることは難しいが、将来の宇宙政策委員会としての検討の視点に入れることはあり得る。

「有人宇宙探査等国家プロジェクト」の「等」は分かりにくいので明確化すべきではないか。  
意見を踏まえ、「国家プロジェクトとしての有人宇宙探査」と修正。

有人宇宙探査において学術的な探査を行える機会があれば、そこに参加することは宇宙科学の発展にとって有効である。ただし、これは宇宙科学探査がボトムアップで着実に実施できることが前提となる。

米国ではスペースXなど民間企業が宇宙探査に積極的に参加している。我が国の検討においても民間と協調していく観点は重要となる。

以 上